



全国一般評議会

闘争情報

No.322

2018. 3. . 28

東京都千代田区六番町 1

TEL 03-3263-0441

FAX03-5210-7422-5

ヒロシマで平和問題を考えよう

第15回青年・女性交流会を開催

全国一般評議会は、3月17日～18日、広島市内で第15回青年女性交流会を開催し、全国から47人が参加した。

開催にあたっては、例年、開催地の地方労組が中心となり、準備をすすめている。交流会では、主に参加者が各地域での1年間の活動を紹介し、共有している。お互いの取り組みを知り、問題・課題についてともに考え、各自が組合に持ち帰って活動にいかしている。

例年、さまざまなテーマで開催しているが、今年は、あらためて平和問題を自分たちの問題として捉え、学ぶことを目的として、広島での開催となった。

【自分の問題として、自分で考えよう】

冒頭、北島あづさ幹事は、前年度の交流会の内容を振り返り、紹介するとともに「戦争が起こりうる危機に直面している今、自分の問題として考えるきっかけにしてほしい」とあいさつ



した。続いて、地元広島県本部の戸守委員長、広島地方労組の久野委員長からもあいさつを受けた。労働者の連携・団結が大切であること、職場や政治、平和、さまざまな課題について、自分で考え学ぶことが大事だと話した。

【原水禁運動の歴史に学ぶ 金子哲夫代表委員】

金子代表委員からは、原水禁運動が始まった経緯や、目的、これまでの活動などの話があった。講演では、核の被害はウランの採掘、実験の過程からすでに始まっていること、オーストラリア大陸の先住民や、太平洋諸島での生活を脅かしていること、大量の核兵器が存在するこれらの背景には、政治の構造があることなど、丁寧な説明があった。

また、日本の平和運動を担ってきたのは組織された労働者で、この役割はい

まも変わっていないこと、最も大切なものはいのちであることを改めて強調するとともに、運動の成果はすぐにはでないが、原点にこだわりあきらめず訴え続けていくこと一人ひとりが自分のこととして、自分の考えを持ってほしいと話した。

【仲間の活動を共有】

また各地方労組での青年・女性部の活動や、争議報告など、それぞれ活発な意見交換があった。活動がうまく進まない状況や、活発な取り組みなど、それぞれの課題を共有する場となった。

【被ばく体験者・切明千枝子さんの証言】

2日目は、被ばく体験者の切明千枝子さんから証言を聞いた。切明さんは当時15歳で、学徒動員でたばこ工場に勤務していた時の経験をはじめ、人だけでなく動物も戦争に駆り出されたこと、日本による侵略戦争の背景にもふれるなど、さまざまな貴重なお話をしていただいた。原爆が投下された瞬間やその後経験した「あの日」の証言は、参加者の心に深く響いた。

また、二度と戦争はしてはいけないと思うと、下級生たちの悲惨な死を後世に語り継ぐことで、平和を守ることにつながれば、何よりの供養になると証言活動を続けていると話した。

最後に、「顔もわからなくなるほど火傷で膨れ上がり、地面につくほど垂れ下がった皮膚を引きずりながら、学校まで歩いてきた下級生に、成す術はなかった。先生は、垂れ下がった皮膚を切り取った。私は、ぶるぶると震えながら、亡くなった下級生に火をつけ、この手で下級生たちを焼きました。戦争とはそういうことです」と話し、証言を終えた。



【持ち帰り活動に活かそう】

また2日目は、広島地方労組の佐藤書記長の説明を受けながら、原爆ドームから、原爆の子の像をまわり、原爆死没者慰霊碑では全員で黙とうした。広島平和記念資料館も見学し、参加者からは「歴史を学ぶことができ、あらためて命の尊さ、平和の大切さを教えてもらった。持ち帰って今

後の取り組みに活かしたい」などの感想が聞かれた。最後に、三木副議長の講評、北島幹事の閉会のあいさつで2日間の日程を終えた。